

令和8年度 第1回図書館協議会議事録

- 1 開催日時 令和8年6月24日（水） 午後2時～午後4時
- 2 開催場所 榛原文化センター 3階中会議室
- 3 出席者

【牧之原市図書館協議会委員】 1名欠席

岡田 克彦
増田 曜子
佐藤 寛
武田 てるみ
宮崎 純
大石 武晴
村松 利奈

【事務局】

教育文化部長 竹内 英人
社会教育課長 浅井 大典
図書館長 内山 卓也
図書館係長 水野 秀信
主任 元木 香代
会計年度任用職員 芹澤 芳里

- 4 傍聴者 1名
- 5 議題

【報告事項】

（1）令和7年度図書館事業実績について

◎事務局説明要旨

図書交流館の開館日は図書館システム更新を実施したため昨年度より7日間日数が減少し、文化の森図書館は令和6年のオープンから7日間増加した。9月の竜巻災害による停電で文化の森図書館では1日半休館したため開館日数に差が生じている。移動図書館も例年96日の運行で予定を組んでいるが竜巻災害の影響で2日運休し、その2日分は別イベントで運行した。

来館者数・貸出数に関しては若干の減少はあるが概ね例年と大きな変化はない。蔵書数は交流館6万5千、文化の森図書館4万、移動図書館8千、市全体では11万3千冊程度である。購入金額・購入冊数も図書館基本計画で定めた目標数字を認めてもらっている結果の数値だと思う。寄贈図書も例年同様1000冊以上の受入をしている。

予約受付数には文化の森図書館の方が多いという特徴がある。利用の仕方とし

て予約制度を活用する利用者が多い。見学視察受入も引き続き対応しており、取材も多々受けている。5月には朝日こども新聞や書籍で図書交流館が掲載された。市外からも注目されている。本日も牧之原小学校の図書館見学を行った。

サポーター参加数は読み聞かせやバルマーク整理、配架などの活動実績である。インターネット端末利用に関しては、交流館はスタンド型、文化の森図書館はタブレット型の貸出をしている。利用者カード登録者は令和6年度より900名増加し9500名の登録である。HP閲覧数も令和6年度より200アクセス程度増加した。

実績の推移をみると両館ともに開館した年度は大きく増加している。蔵書数も順調に増加している。講座・イベント実績では例年子どもから大人の学び講座まで幅広い世代が参加できるイベントを実施している。昨年度協議会でも説明したが、いろ葉一周年記念事業では来館者10万人と合わせる形で榛原高校と実施した。

また特徴的な点では「受験生にエールを送ろう！」のイベントで、開館した令和6年度は多くの受験生が利用してくれたことから、寄せ書きの形式でいろんな方に受験生への応援メッセージを書いてもらった。

移動図書館のイベントでは、「ひまわり号キャラバン」として竜巻等災害の大きかった細江地区の児童クラブなどへ複数回訪問した。地元の方からの声もあり実施したが、本の貸出やおはなし会を実施したところ非常に喜んでいただいた。

資料1の最後に令和7年度の自己評価をまとめている。

交流館に関しては来館者の減少がみられるものの大きな変動は無かった。特徴としてはりんごの棚拡大や拡大読書機の設置など多様な利用者を意識した運営に取り組んだ。

文化の森図書館は引き続き運営し開館2年目で高校生の学習室利用など固まってきた。小学生向けイベントのスライム教室、スポーツ推進課と共催した吹き矢イベントなど多世代で参加できるイベントを意識して実施した。

図書館全体としては9月の竜巻等災害をきっかけに弁償免除規程の整備など利用者に寄り添った仕組みづくりに取り組んだ。また子ども読書活動推進計画を策定し、読書活動の推進基盤を整えた。

(2) 令和8年度図書館事業（案）について

人員体制は正規職員の配置変更もあったが計16名での体制は変わらない。

予算額は前年度と大きな変更はない。子ども読書活動推進事業費は令和8年度から総務費に統合した。令和7年度はシステムの入替えがあったため、前年度比で大きく増加している。

今年度新たな事業として4点報告する。

『子ども読書活動推進計画の着実な実施』。令和8年3月に策定された計画に基づき現在施策を進めている。学校・家庭・地域の連携した環境整備、実態把握や効果検証を行いながら改善を図っていく。

『第2次図書館基本計画の中間見直しの実施』。令和12年までの計画だが、図書館協議会等からの意見聴取をし、現状評価を踏まえて、新たな社会状況やニーズに応じた計画内容へ見直していく。

『閉架書庫での教育支援センター「フルール」の開設』。市の課題として不登校の学生が増えていることから相良地区にも設置してほしいという要望があり、図書交流館の閉架書庫を令和8年4月からフルールのサテライトとして運用をしている。

開設日時を火曜日から木曜日で設定し、フルール開設中でも閉架書庫としての利用やボランティア活動としての機能を従来通り可能とした。閉架書庫には1万冊程度の資料が置いてあるので、読みたい本を読んでもらえるよう配慮している。ただし書庫としての機能を損なわないために、読んだら同じ場所へ戻すようお願いし、子どもたちに代本版を用意してもらった。本を抜いた場所に代本版を差し込み、読み終わったら資料と差し替えることで戻す場所を把握するためのものである。1日に2・3名の活用があると聞いている。

『あそぼっとおはなし会の実施』。あそぼっとでは月一回、読み聞かせや読書推進に関する情報提供等のおはなし会を開催していた。今まではボランティア団体による運営だったが、継続が難しくなったことで図書館に相談があった。子ども読書推進計画ができたこともあり、図書館職員が引き継いで実施している。

今年度5月には図書交流館いこっと開館5周年・来館者50万人記念イベントを開催した。相良高校や市民のボランティアなどと連携しながら複数のイベントを実施した。イベントの時間だけで1,000人以上の来館があり一日中にぎわった。相良高校の生徒や読み聞かせボランティアに参加してもらったおはなしフェスティバルではテレビ局の取材も入り、当時の様子がテレビ放映された。図書館だけではなく地域全体で図書館を盛り上げた有意義なイベントになった。

◎委員からの主な意見

(委員) 令和7年は7日間システム更新による休館があった。12月末の冬休み期間中だったことで、学生が勉強目的で来館したが休館で残念だったという声を聞いた。

これだけ中高生の居場所として定着してきたので、今後は代わりの場所を用意してもらえると嬉しい。

(図書館長) 今年も蔵書点検で一週間の休館がある。文化センターの会議室やミ

ルキーウェイスクエアの芝スペースを借りることで学習室として提供するなど可能な限り応えたい。図書館のエリアではないので、どこまで管理できるかなど今後検討していきたい。

(会長) 図書館に期待することが大きくなっていると感じる。たくさん使ってもらいたい。

(委員) 来場者人数が両館で大きく違う。子育て支援センターがあるなど両館で役割も違うと思うが、子育て世代としては子どもたちの読書離れが気になる。文化の森図書館では芝生スペースなどで駄菓子の販売やキッチンカーを招くといった親子連れが来やすいきっかけを作してほしい。

また年間スケジュールが出ているので、事前にイベントを掲示してほしい。

(委員) 利用者カードの登録者数について、増加した 900 名の年代や内訳はわかるか。学校指導で図書館利用を勧めているが形として見えるものがあれば知りたい。

(事務局) 小学生の学校見学前には利用者カード登録のアナウンスをしているため、小学生の取得率は高い。年代としては 40・50 代の大人世代の登録が多い。20・30 代の取得は少ないが親子でカード登録をしてくれる事例が見られる。牧之原市の特徴として約 15%程度の方が市外の利用者であり、年々増加傾向がみられる。かつての図書館では見られなかった傾向であるため、あえて牧之原を選んで来てくれているかと思う。

(委員) ぜひ中学生に通わせるようにする。

(会長) 中学生になると本から離れてしまう傾向がある。大人になって、もう一度図書館に戻ってもらえれば一番良い。市内に図書館施設が 2 館あり、一緒に地域活動していることは良いことだ。

個人的立場で言うと私の親は本に興味がなく、家に一冊も本がない環境で育った。読書感想文を書くために本を買ってほしいと言うと図書館で借りるようにと言われて育った。小さい時にどれだけ本に囲まれて生活していたかが人生に関わるのではないか。読書感想文は苦手だったが毎日のように図書館に通うようになったことが今につながっていると思う。自分の経歴のすべての段階において図書館は良い場所だと感じている。

地域書店との連携も良いと感じる。図書館に来館する子どもの声を地域に活かしていき、多方面でプラスになればよい。今は書店が減っているが、子ども

たちが大人になる頃には書店が増えているかもしれない。期待したい。

(会長) 令和8年度の事業案も含めて何かあるか。

(委員) 中高生の読書のきっかけについて、高校生は勉強での利用が多いと思うが中学生が来るきっかけが難しいと感じる。学校の図書室にも行けないほど忙しいと聞く。図書館イベントを見ると大人・子供主体のものが大半である。中高生向けのイベントをお願いしたい。牧之原市では中高生のための居場所が少ない。安心して過ごせる場所が図書館であればよいと思う。中高生が来館する仕掛けをぜひ作ってほしい。

(図書館長) 中高生が勉強に来るだけでなく、図書館が居場所として機能することがひいては本に触れる機会や何かのきっかけとなる。こういった図書館の機能をより高めていきたい。また、図書館はクーリングシェルトーとしての位置づけもある。イベントも含めて企画を練りたい。

(委員) 近年は中高の生徒数が減少している。高校生がボランティアで来てくれること、大変うれしい。自身も本を読んでいた経験がためになっている。ぜひボランティア参加を継続拡大していったほしい。

(委員) おはなし会は、人から話を聞いて創造力を高めるものだと感じている。学校でお話を聞いてもらうのも良いのではないか。読み聞かせボランティアをできるだけ活用してほしい。“本を読みなさい”だけではなく、人から話を聞いて興味を持ってもらい読みたい本を探してほしい。きっかけとしてのおはなし会は良いのではないか。

(副会長) 実績を見ると少ない職員数でよくやっただいていて。大変な中、イベントも頑張っていると感じる。来館者数などの実績に減少がみられ、基本計画からすると伸びが足りないと感じたが、実際は数字だけでなく図書館が市民から慕われていて必要な情報が手に取れて安心できる図書館であれば問題ないと思っている。良い事業をやっていると思う。

相互貸借の数値で依頼受付数と借受数がほぼ同数で良いと思うが、具体的な依頼資料の内容を知りたい。

(事務局) 昔の小説や牧之原市に所蔵のない文学作品のシリーズや絵本、実用書では人生訓などが多い。

(副会長) 絵本や文学作品以外の依頼が来た際には、予算の都合もあるが利用者層に配慮し購入費を確保するといった選書も検討してほしい。

移動図書館も効果的に運営していると思う。災害の際に市民に寄り添ったおはなし会や公民館まつりに出向くなど、その時々必要性・求めに応じて機動的に運営されていて良いと思う。

事業内容について、今年度から「あそぼっと」でのおはなし会を図書館が引き継いで実施するとのことであるが、令和6年度から職員数が減少しているので、職員の充実に関しては引き続き努力をお願いしたい。

【協議事項】

(1) 第2次牧之原市立図書館基本計画の評価について

◎事務局説明要旨

今年度は図書館基本計画の中間見直しを実施する。見直しにあたっては事業の自己評価をしている。外部評価も含めて計画の見直しをしたい。

1 暮らしを支える専門サービス、2 であいを創る交流・憩いの場、3 あなたと図書館をつなぐネットワークの3つの柱があるが、ポイントごとに付け加えて説明をする。

1-3「資料の収集」では、購入費を一冊あたり1,750円で積算している。現状文庫本1,000円、児童書3,000円など書籍の高騰が進んでおり、なかなか予定通りの購入冊数に到達できていない。しかしながら現在113,000冊の蔵書数であり、寄贈を含め12万冊に届くように努力している最中であるためB評価とした。

1-4「レファレンス」はA評価とした。令和8年度からデータベース化し、レファレンス記録をエクセル入力することで管理している。どのような資料が求められているか、タイトル等の集計をしやすくした。

1-5「図書館機能周知」はB評価とした。図書館機能の取り組みとして「かんたん利用案内」を作成した。また多言語の利用案内や優しい日本語の取り組みはしているが、一般利用者の利用案内への取り組みが甘いと感じている。

1-7「ビジネス情報提供」では、「わたしたちの月3万円ビジネスコーナー」や「おかえりプロジェクト」、商業振興のための「まきペイ」プリペイドカード販売機設置等で、市の施策との連携を図った。

2-2「学びの場提供」はB評価とした。今回の意見でも出たが、イベントの実施が「学びの場」としての講座としてつなげる取り組みをしているが、より学びにつなげる仕掛けをしていきたい。

2-3「多様性と包摂性推進」はA評価とした。利用案内の多言語化や、交流館ではりんごの棚や拡大読書機の設置などができた。

2-5「企画展示」では、新たに「話題の時事」と題した司書おすすめ本コー

ナーの設置など工夫をしている。

3-1「市民協働」はC評価とし、不十分な点があると評価した。ボランティアの方々には一生懸命協力いただいているが、ボランティアの世代交代の課題・育成への関わりが弱かったと思う。ボランティアが減ってきている理由の一つでもある育成部分のしくみを取り入れていきたい。

3-2「官民連携」はB評価とした。雑誌スポンサー企業が5つ減少している。雑誌そのものが売れない・休刊が進む厳しい中ではあるが企業連携を充実させている。

3-5「生涯学習」はB評価とした。「まきのはら塾」等に資料や活動情報の提供に関して課題があったと思う。

3-7「市政策との連携」はA評価とした。交流館の閉架書庫をフルールサテライトとして活用するなど図書館として可能な範囲で協力した。

◎委員からの主な意見

(会長) 図書館長からの説明で厳しめの自己評価だと感じた。

(委員) 1-3について、文化の森図書館に来館することが多いが、実用書で本を探すと、面出しではなく書架に詰まっている印象を受ける。図書館の醍醐味は、自分の意識になかった本を見つけた時の発見・驚きではないか。せっかく沢山の本があるので、目に留まるような書架の工夫・レイアウトがほしい。

(会長) 書架のスペース問題がある。できるだけ沢山の本を開架に出そうとすると面出しができない。

(図書館長) 文化の森図書館ではスペースの問題がある。書架のキャパシティと蔵書数の兼ね合いで棚がきつい箇所が多い。面出しもしたいが、そのために必要な本を棚に置き、読まれない本を閉架に移動する、面出しは、昨今の話題を把握しながら丁寧にやっていくなど、意識しながら運営したい。

(委員) 学校との連携強化で、子ども読書活動推進と絡めて意見したい。読書感想文を書いてもらうために学校でも図書室へ連れていくが、そもそも本は読んでみないと内容がわからない。厚い本は敬遠される。私からは、厚い本だけど短編のお話により構成されていて、一つだけでも十分読み物として成り立っているなど説明し、生徒の選書の段階で読んでもらえるようにメッセージを発している。このようなPOPをさらに踏み込んだものにしてたくさん作りたいと思っている。

広報まきのはらでも本の紹介があるが、子ども向けか大人向けの紹介がほと

んどなので、中高学生むけに紹介できればよいと思う。学校では自分の読んだ本の紹介を貼っているが一人では限界もあるので、多くの人が魅力的な本の紹介ができればよいと感じている。

(委員) 3-1「市民協働の図書館づくり」において市民団体との関わり合いが少ないとのことであったが、改善に向けた提案は出ているのか。

(図書館長) 全体的に人口の構造変化から、ボランティアと子育て世代の組み合わせができず、世代交代につながらない。どういう仕組みの中で子育て世代へ説明し、関わりを作るかが課題である。

まずは図書館に来てボランティアが楽しいものだと知ってほしい。様々な方向からアプローチを掛けて関わってもらうことが必要だと思っている。子育て世代対象のイベントを実施し、図書館見学や案内を少しずつ進めて知ってもらう。一足飛びにできないのが現状だと思っている。少しずつ地道に進めていきたい。

(副会長) 3-1に関して、個人的にはボランティアの方が沢山やってくれていると思っている。それは図書館がきちんとボランティアをサポートしているからではないか。よも一ね！マキノハラの事業内容も素晴らしく、図書館が行っていない部分をやってくれていて、うまく連携できていると思うのでB評価でもよいのではないか。事務局の自己評価のように次世代の育成が不十分だとしてもC評価でなくてもよいと感じた。

図書館側が講師となってボランティア対象の講座を年1回でも行うなどしたらどうか。

(会長) 3-1は他市町の図書館と比べると努力していると感じる。年齢層や世代交代の問題は牧之原市だけでない大きな課題だと思う。本来ならA評価をつけたいところだが課題があるためB評価だと思う。

1-3「資料収集」に関しては書籍代が高騰している。コロナを超えた現在、急激な値上げがなされ、文庫本でも1,000円近い値段であり昔では考えられない状況となっている。購入費もなかなか上げられない現状ではあるが、それでも様々な資料提供のために、寄贈などで頑張っていると思う。本当ならA評価にしたいところだが、市からしたら間に合っていると思われてしまう懸念もあり、Bの上といった評価だと思っている。

評価についても意見があればいただきたい。

(委員) 1-3の関連で培本塾から郷土資料の受け入れがされたとあり、胸が躍

った。子どもたちが郷土を知っていけば好きになるのではないか。郷土の良さがわかればいつかは地元に戻ってくると思う。郷土資料を大切にして、子どもたちにPRしていきたい。

(委員) 中高生は部活や趣味などやりたいことが多いため図書館利用が少ないという意見があった。例えばスポーツをする生徒であれば、トレーナーを講師に招き、体の動かし方やスポーツを紹介する、動画紹介の講座と図書館資料を紹介するなど興味を持つような講座があればよいと思う。

小学生と一緒にしてしまうと中高生が参加しづらいと思うので、中高生限定にしたらどうか。

(副会長) 中高生限定イベントは良い意見だと思う。以前ある高校野球部で朝練を朝読書に変更し読み聞かせなどを行ったところ、良い効果があったとの事例を聞いたことがある。また静岡市立図書館では学生に本の帯を作成してもらい図書館で展示し、同年代の利用者に興味を持ってもらえた事例もある。あまり手をかけなくてもできることをやってもらえたらよい。

1-3では物価高騰も考慮して図書館の蔵書を増やして欲しい。個人的にはB評価でもよいと思う。

1-5「図書館の機能周知」では、一般向けの周知が不十分でB評価とのことだが、個人的にはBの上でもよいと思う。

1-6子ども読書活動推進計画は大切な事業であるし、A評価でよいと思う。今後に期待している。

1-8「移動図書館巡回」はよくやってくれていると思う。

2-2「交流学びの場提供」も努力していると思う。目指すものの食い違いがあるが個人的にはA評価でもよいと思う。

2-5「魅力ある展示」では、委員から面出しの提案があったが、交流館では時事関連資料の展示を行っている。こういった展示を互いの館で交流させることで、作業量は少なくともうまくやっていけるよう連携してほしい。

3-1「市民協働」は先に意見した通りB評価で妥当だと思う。

3-2「官民連携」は雑誌スポンサーが減少したとある。しかしスポンサー企業が頑張って応援してくれている。牧之原市でこれだけの数のスポンサー雑誌を提供してもらえていることは大変素晴らしいことである。むしろ利用希望が多いようなら図書館で購入を検討してもよいのではないかな。

3-5「生涯学習連携」では大人の方・高齢の方など対象に応じた細かな配慮をお願いしたい。閉架書庫を利用した「フルール」の利用も心配していたが、閉架書庫の機能は残しつつ、「フルール」利用児童も本が読める運用は良いと思う。

(委員) 1-4「レファレンスサービス」について、以前にサービスを向上したいといった意見が出たと思う。今回データベース化しか言われておらず、レファレンスサービスそのものの実績や向上されたかの評価はどうなっているのか。また以前に「職員に話しかけにくい」という課題とPOPを置くといった意見が出たと思うが、そういったソフト面のサービスはどうなっているのか。

(図書館長) 簡易レファレンスのデータベース化に関しては、本の有無や所在の確認といった簡単な意見・質問も含めて記載している。データベース化によってどの本を求めているのか、どういった本に多く需要があり利用されているのか“見える化”でき、これらを選書に反映する形で活用している。

レファレンスサービスでは何日もかけて回答する場合もある。他館資料の取り寄せで対応するなど、司書が所蔵資料の範囲内で丁寧な回答を心掛けている。数年前に比べて増えており気軽にカウンターへ来てもらえている。これからも活用してもらえようPRしていきたい。

(副会長) レファレンス件数が合計 2,300 件程度あり、目標値以上となっている。当初より数値が伸びており良いと思う。

(会長) レファレンス件数が数値として出ている。利用者へ提供されている表れで素晴らしいと思う。レファレンスが良い図書館かそうでないかの境を作る。今実施していることを地道に継続し、信頼を勝ち取る、信頼される図書館であり続けてほしい。

3-1「市民協働」はB評価で良いのではないか。市で抱えるには課題が大きく、図書館単独で解決できるものではない。外部評価としてはB評価でお願いしたい。

1-3「資料収集」の購入費高騰もありB評価のままだが良いか。寄贈も含めて充実させていることを鑑みてA評価が良いか。

(委員) 3-1はB評価で良いかと思う。

(会長) 2-2「交流学びの場提供」はA評価で良いと思う。季節のイベントなどは工夫されている。年間通して取り組みもしている。これらは来館にもつながると思う。

(委員) 2-2、3-1については花の会でも関わっていて一緒に花壇を作っている。アサギマダラを招くための企画も実施しており、市民発信の企画にも図書館が協力してくれている。「青空図書館ゆうゆうランド」でも移動図書館が来て

くれている。学びの提供、市民協働はできていると思う。3－1はC評価だと悲しく感じる。

帯づくりの意見が出たが、図書館では子ども向けのムシムシパークなど塗り絵をする工作コーナーはあったが、大人向けにも“帯を書いてみよう”などといったワークショップ形式で実施し、図書館に来てくれるきっかけづくりのイベントをやれたらよい。

学校連携強化では、郷土を学ぶ起郷家教育といった取り組みがある。郷土を学ぶきっかけとして図書館の本は結び付けやすい。起郷家教育の文言をどこかに入れてほしい。

(図書館長) 今回沢山の外部評価・提案をいただいた。中間見直しの文言で入れ込みたい。B評価・C評価の箇所は基本計画そのものに手を入れ、意見を参考にしながら整理していきたい。

(会長) 多くの意見が出たが、外部評価は以下でよいか。

1－3はA評価かB評価か保留にしたい。また意見を募りたい。

1－4レファレンスはA評価としたい。

1－5はB評価。

1－6・1－8はA評価。

2－2はA評価。

3－1 外部評価はB評価。また自己評価もB評価でよいのではないかという意見も出た。

3－2はA評価。

3－7はA評価でそれぞれ意見が出た。

(委員) 1－3「資料収集」の説明で寄贈受け入れを積極的にしているとあった。70歳を超え、断捨離を考えて過去に読んだ本を処分した。寄贈受け入れをさらに募り、職員で自宅に見に行くといった提案をしたい。

(委員) 移動図書館について公民館まつりに参加したとあった。非常に良いと思う。多世代の地域住民が集まる所なのでPRする場として良い場所だと思う。地域の人にわかってもらえる。どんどんやってほしい。

(2) その他

(事務局) ブックオフから市との連携相談があった。メリットやデメリットがあると思う。例えばイベント受け入れの部分では読書週間に民間企業との読書啓発ができる点などはメリットだと思う。

しかし書籍などの回収ボックスを市内に設置し、査定した金額分を市に寄付

するプロジェクトの例が説明された。佐藤委員から図書館の本の寄贈意見もいただいたが、寄贈のニーズはありたくさんの寄贈をしていただいている。年間1,000冊以上の寄贈受け入れをしているが、窓口で受け取っている資料は登録数の2、3倍いただいている。寄贈資料が大量な場合は、図書館司書が自宅に訪問して寄贈資料の確認や受け取りもしている。また受け入れしなかった本は図書館友の会が販売し、売上金額を雑誌スポンサーや図書館支援で役立ててもらっている。こういった仕組みが成り立っている中、ブックオフの提案は図書館友の会のリサイクル本販売と相反するというデメリットがある。

市としてはメリットの部分もある一方、寄贈受け入れや図書館友の会の活動への後退の恐れ、取り組み自体が図書館運営資金にはならずクラウドファンディングのような寄付の仕組みであるので、図書館としての関わりが難しいと思う。

また寄付行為に関する事務手続きが煩雑になり業務に支障が出る心配もしている。また先行して行っている自治体からは、ブックオフの回収ボックスを図書館のブックポストと間違えて図書館資料を入れてしまう事例も発生している。このようにいくつか懸念点があり、連携事業の話をしていただいた際に図書館協議会でも共有する旨を伝えた。ご意見があれば伺いたい。

(委員) ブックオフ回収物の中に書籍が入っている部分が図書館と重なるために連携したいの难道うかと感じた。しかし回収物の中から図書館資料として蔵書が増えるわけではないので、図書館の活動とは一致せず連携にはつながらないと感じる。

イベント来館促進も図書館にどの程度メリットがあるか読めない。ブックオフの本が安く売られるのか、図書館資料の位置づけがどうなるのか難しい面があると思う。

(副会長) 本の寄贈については、すでに図書館友の会とうまく連携して行っている。友の会での売り上げが図書館に直接還元されるシステムが出来ている。この道筋は大切にすべきだと感じる。

また回収ボックスの管理がとても心配になる。雑多なものが入る可能性があり、図書館の本以外に余分なものが入らないか。余分なものの保存管理だけでも図書館の業務が増える。資料費の少なさからくる選書の大変さ、レファレンス業務、事業業務など増えている中、さらにこの管理が大変で職員の手を煩わせるのではないか。

査定も気になる。回収ボックスの中には図書館がほしい本もあるのではないか。郷土資料など古くても良い資料があっても図書館が手に入る機会がなくなりマイナスになってしまわないか。ブックオフのように金額の高い安いで資料の

価値は決まらないと思っている。売上金も図書館に入らないので、何故図書館がやるのか疑問がある。

(会長) 違和感を感じる。民間事業者が入ってくると、先方の目的と図書館の目的と合わないことが出てくるのではないかと。委員と同様で難しいと思う。

(委員) 同じく委員の意見に賛成で、すでに図書館友の会による仕組みが出来ている。連携しなくても良い。ただ回収ボックスが気軽にできるのは良いのではないかと。ゴミや図書館貸出資料が入る懸念に対しては専用のビニールバッグに入れて回収ボックスに入れるといった差別化できれば良いのかもしれない。

(委員) 自分の家でも断捨離をしている。「地域への波及」において図書館をハブにして交流する点は気になる。しかしながら委員の発言のとおり利益追求の懸念がある。

率直に純粋な教育理念を持つ図書館と民間事業者として利益追求する面を持つブックオフでは相反するのではないかと。仮に実施するにしても慎重に進めてほしい。

(委員) 発想は面白いと思う。ただ市民からの寄付は誰にされるのか。所有権の有無が気になる。市に譲渡され、振り分けられてブックオフに渡る形なのか。細かく考えると複雑に感じる。ブックオフ側からしたらたいしたことないように考えていないかもしれないが難しいと感じる。

(図書館長) 仕組みとしては通常であれば客がブックオフへ書籍を持っていき査定された金額を入手するが、今回は査定された金額が持ってきた方ではなく市に寄付される形である。行政・図書館が先に選別し、いらぬ本をブックオフに渡す仕組みではない。

ブックオフの回収ボックスに入れられた場合、図書館に直接寄贈としていただいていた 1,000 冊以上の貴重な資料が入ってこなくなる危惧がある。加えて図書館友の会との兼ね合いもあり慎重に考えるべきだととらえている。

(委員) 市が間に入るからこそ役立つようにとの思いで寄贈いただいている。ブックオフからしたら市が間に入っているからと思われて今まで埋もれていた本が出てくる狙いがあるのではないかと。

(副会長) 市や図書館などの公共機関に対する市民の信頼が、別の目的のために利用されてしまうように感じる。

(委員) 市の名前を利用して埋もれていた本を引き出す戦略だと感じた。

(事務局) いただいた意見を参考にさせていただく。また事務局で検討したい。

以上